

8月1日のウクライナ情報

安齋育郎

●アメリカがロシアをテロ支援国家に指定する動き(2022年7月27日)

<https://youtu.be/s9lmBXHzZdk>

上院では賛成 99、反対 1 だったが、反対 1 は共和党のランド・ポール議員だった。

さて、米国では7月27日に上院で、「国務省にロシアをテロ支援国家に追加するよう求める」法案が可決しました。賛成99人反対1人という圧倒的多数で、賛成しなかったのは共和党のランド・ポール上院議員ただ一人だったとのこと。



この決議はしかし、「国務省に訴える」だけで、その権限は国務省にあります。プリンケン国務長官は「実用的な効果が見込めない」として、難色を示していました。

これを生ぬるいとして、今度は下院が、国務省のこの権限を議会に持たせる法案を提出しています。報じたのは米国のPoliticoですが、タス通信がよくまとめているので、以下抜粋してお届けします。

※安齋注: 共和党でも自由主義寄りのランド・ポール議員は個人の権利やプライバシー重視を訴えており、共和党が主導する医療保険制度改革法(通称オバマケア、Obamacare)の代替法案の採決でも反対票を投じました。ウクライナは同議員を「ロシアのプロパガンダ」ブラックリストに入れました。

●セベロドネツク住民の地下室生活(2022年7月29日)

ウクライナ軍は自分たちが爆撃しておいてロシア軍のせいにする。常套手段ですね。

<https://youtu.be/066XpjW6lco>

●あのヴィクトリア・ヌーランドが来日(2022年7月25日)



エマニュエル大使はビクトリア・ヌーランド国務次官を、政治担当国務次官として初めて日本に迎えました。日本の関係者と協力し、この地域と世界のために、安全、繁栄、そして自由のために新たな道を切り開いていきます。

※安齋注: 言葉は便利で、危うい。ヌーランドは同じようにしてウクライナにアメリカの傀儡政権を作ったのだろう。

●アゾフ捕虜が重要証言—大統領命令でロシア人捕虜の拷問動画(2022年7月30日)

<https://twitter.com/Jano661/status/1553040501544468481?t=7J1-89H6ClTgE9q89lwuWA&s=09>

※安齋注: ゼレンスキー大統領は役者だったこともあって「映像」の効果を重視したようですが、このロシア兵拷問映像だけは逆効果だったようです。どうも、フェイク映像をやたらに垂れ流して「悪魔のロシア像」を作る作戦に凝り固まっているのは、大統領自身が「人々をその気にさせるにはやらせ映像でも改竄映像でも何でもい」と考えている節がありますが、ウクライナの元社会党のリーダーで、最高議会議員のイリヤ・キヴァ氏が、「誰も理解しようとしな

いが、今のウクライナ政府は脚本家とビデオ編集者で構成されているんだ」と述べたことを思い出します。

●ロシアによるドンバス再建の動き(2022年7月30日)

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1553126402173857792/photo/1>

現在ロシアの30以上の地域がすでにDNR(ドネツク人民共和国)とLNR(ルハンスク人民共和国)の復興支援活動を引き継ぎ、学校や診療所の再建、食糧の配送などに活動している。



●アメリカのNATO大使の弁(2022年7月30日)

アメリカのジュリアン・スミス NATO 大使は、アメリカと同盟国の無力さを認め、「プーチンの戦略的計算を変えようとするあらゆる圧力」にも関わらずロシアは計画を実行し続けていると指摘した。

※安齋注:ジュリアン・スミス氏が NATO 大使に選ばれたのは 2021 年 7 月 18 日。スミス氏は元副大統領副補佐官で、バイデン大統領は同年6月にスミス氏を指名する意向を発表していたが、共和党議員がアフガニスタン駐留米軍撤収の混乱に抗議し、遅れて任命された。

●地学団体研究会(地団研)の機関紙「そくほう」790号に見る会員の意見(2022年8月1日)

会員の声

特集:ロシアによるウクライナ侵攻について思う

まっとうな意見だ

戦争プロパガンダ蔓延を憂う

ウクライナとロシアの紛争開始後、西側は民主的で善、ロシアは全体主義で悪とされ、少しでも中立的な見方を提起すれば怒りをぶつけられ議論のできる余地がないポリコレ的な圧力を伴う全体主義的な空気が日本中に蔓延している気がする。

そもそもウクライナは以前から腐敗や汚職にまみれた全体主義的な政府として有名で、ゼレンスキーが大統領になってから野党をつぶす法律を施行、与党に少しでも異なる意見を言う報道機関は閉鎖し、ジャーナリストも投獄されている。政治家も官僚も私利私欲の金権にまみれ、軍需産業に力を入れており、北朝鮮のミサイルや中国の軍需産業の復興に貢献している。またロシアが言うようにウクライナ国内にはネオナチが軍隊や警察など主要機関に入り込み暴力と殺人、レイプが蔓延している。とくにロシア系ウクライナ国民の多いエリアに日常的に発生しているとされる。

この紛争は2014年にアメリカが陰で主導したマイダン暴力革命(現アメリカ国務次官でネオコンの夫を持つ女性のビクトリア・ヌーランドが指揮)から続いており、本年2月14日の紛争開始前にロシア軍が国境付近から撤退すると発表した途端、2000件以上の衝突が短期間に発生し、紛争が拡大したことで現在に至っているという調査がある。ロシアのプーチンは以前から「ビクトリア・ヌーランドがアメリカの要職に就くと第3次世界大戦が勃発する危険がある」と指摘していたという。

プチャの虐殺もクラストルスク駅でのミサイル攻撃もマリウポリの医療施設攻撃も人道回廊の殺人もウクライナ

軍がウクライナ国民を殺害したことが現場の調査の事実で分かってきている。これらを主導したネオナチのアゾフ連隊などは日本の公安調査庁が今年の3月まで「国際的な白人至上主義のネオナチ組織」として指定していたが都合が悪くなったのか3月8日に指定を取りやめている。

最近の紛争は実際の戦闘行為の他に情報戦、心理戦、世論線が屈指され状況判断が分かりにくいものになっている。ロシアに加担するつもりはないが私は西側の情報だけからこの紛争を評価するやり方はおかしいと感じている。戦争はいずれもプロパガンダにまみれ嘘を積み重ねて相手を攻撃するのが常識だ。ウクライナ側からの情報をそのまま信じて経済制裁をしたり防弾チョッキを送ったり、声明を出すことも虚偽報道に加担し戦争に参加していると認識される危険な要素を含んでいるということも考えなければならないのではないかと。

紛争が起きている国同士が出す情報はどちらかが正義であると信じたいが背景を見ると善悪を断定できることは皆無で勤善懲悪で裁定できるものはないと考えたほうがいいのではないかと。日本の報道機関も欧米のプロパガンダをそのまま垂れ流しせずに事実を報道することに努めてほしい。日本の経済制裁や片寄せた支援は、ロシアへ宣戦布告したと同じ状況ととられ、それ相応の覚悟が日本に必要になると思う。日本は紛争への支援ではなく紛争後の復興や一般避難民の支援に徹するべきではないだろうか? いずれにしても早期の紛争の解決や被災された方々の一日でも早い復興を願う。

(北海道支部 荒川昌伸)

●「負傷ロシア兵は去勢しろ！」(再送、2022年3月18日)

「負傷兵は去勢しろ」と指示しています。何故ならロシア人は人間ではなくゴキブリだからです」

<https://twitter.com/Jano661/status/1553234735123804161?t=Pp710b5iNfy1PfbIw90Rmw&s=09>

●マリウポリの女医の証言(2022年7月30日)

マリウポリの女医が、ウクライナ軍の兵士らが意識的に住民を盾代わりにしていた事実を語りました。

<https://youtu.be/gJ-H6nsn-FY>

●マリウポリ住民が劇場爆破事件関連の証言(2022年7月30日)

「避難所に隠れていた人たちから聞いたわ。アゾフの連中がやって来て、彼らを追い出したんだって。コップ1杯の水をやってみんなをサヴォナ映画館に連れて行ったと」。(日本語字幕なし)

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1553324088382279680?t=mX5jpEe0QzQvBuDQgPSUUw&s=09

※安齋注:公共インフラもウクライナ軍によって破壊され、水なしの生活を強いられていたため、「コップ 1 杯の水」も価値があったのでしょう。極右民族集団はそうにして「人間の盾」を作って劇場に立てこもり、いよいよダメとなると劇場を破壊して逃げるといった常套手段がここでも用いられたのでしょう。マリウポリ劇場爆破事件は他の被災者の証言や、天井や屋根の損傷の貫通孔が「下から上に向かっていた」という調査でウクライナのアゾフ連隊の仕業出るとは知られていますが、この証言も間接的ながらそのことに関連しています。

●ノルウェー外交官エリザバス・エリングセン(ムルマンスク駐在)のロシアヘイト

ムルマンスク駐在のノルウェーの外交官エリザバス・エリングセンが、ホテルのフロントで口汚く文句をつけた後で、英語で「私、ロシア人嫌いななのよ」と付け加えた。

<https://www.youtube.com/watch?v=A6vRpYNTj4o>

※安齋注:何なんでしょうね、この外交官?国際問題化してしまいました。ロシア外務省のザハロワ報道官は、モスクワは、もしノルウェー外務省が何もしないなら、彼女に罰則を課すことを考えているとのこと。

30 Jul, 2022 12:14 / Home / Russia @ FSU

Russia slams Norwegian diplomat for xenophobia

Moscow accused a Norwegian consul of anti-Russian "hatred" after a tirade of hers was caught on video



Russia's Foreign Ministry has condemned a Norwegian consul for a "hateful" tirade after a video emerged allegedly showing her arguing with the staff at a Russian hotel.

The clip – posted by the Russian news outlet Mash – allegedly shows Elisabeth Ellingsen, a Norwegian consul stationed in the northern Russian city of Murmansk, being rude during an argument.

"I hate Russians," the woman says in English. "You know, I'm used to [staying in] clean rooms. I'm from Scandinavia, not some Russian woman."

"The Russian Foreign Ministry is now considering options on how to respond to this outrageous act of hatred, nationalism and xenophobia," spokeswoman Maria Zakharova wrote on her Telegram channel on Saturday.

Zakharova appeared to suggest Moscow is considering imposing penalties against Ellingsen. "Unless Norway's Foreign Ministry beats us to it. It would be the right thing to do, she added, apparently expecting an immediate reaction from Oslo. Norway has not commented on the matter.

© Facebook / Norwegian Consulate General in Murmansk

Elisabeth Ellingsen

●息抜きのための可愛い映像(2022年7月30日)

犬のしっぽが可愛い。

<https://twitter.com/morpheus7701/status/1553126940995121152?t=D99cI2wT9PDH7VXnJXwDQ&s=09>